

IOT活用の 取り組み紹介

県コンソーシアム総会

モノのインターネット(IoT)など先端技術の県内企業への普及・浸透を目指す「県IoTコンソーシアム」は21日、大垣市小野の情報工房で総会を開いた。パネル討論もあり、県内企業3社が参加者約185人を前に、先端技術の導入事例を発表した。パネル討論では、機械メ

ーカーのエヌテック(養老郡養老町)と陶磁器メーカーの光洋陶器(土岐市)、業務用ソフトウェア開発のテクノア(岐阜市)の社長らが、IoTで検査データをネットワーク上のクラウドにアップし顧客と利用法を模索している取り組みや、センサーで社長の在席を感知してIoTで社員間で共有するシステムの活用などを披露した。

同コンソーシアム理事長の松島桂樹ソフトピアジャパン理事長は「IoTは

1万円以下で始められる”などと着手を呼び掛けてき



IoTなど先端技術を生かした県内企業の取り組みが紹介された。パネル討論は「大垣市小野、情報工房

たが、今後は業績アップなどの“出口”に向けてしっかりとサポートしたい」と話し、コンソーシアムへの参画を呼び掛けた。

コンソーシアムには同日時点で240の企業や自治体、各種団体が加盟。総会では会員らによるワーキンググループ(WG)に500万円を上限に助成する支援事業に4500万円を盛った本年度収支予算案などを承認した。NTTデータ前社長岩本敏男氏による講演もあった。(古家政徳)